

溝の日々のそれぞれの記録の中にうずもれている稲田さんや、若くして死んだ富永君などの追悼はそのまま我々の若き日のそれであるような気がする。

気の若かった稲田さんはそれでも「わしはもう入るところが重森先生にたのんで作ってもらうてある」とかね

てから口にしていた。重森先生というのは、稲田さんが長い間、親しくしていた京の造庭家の重森三玲氏である。その自慢していた稲田さんのお墓は吉田山の東、神楽岡町の、吉田町神道墓地にある。

雑報

新周期彗星

愛知県一色町の小島信久氏は1970年12月27日(UT)光度14等の新彗星を発見した。周期彗星ニュージミン第II彗星を写真で捜索中に発見されたものである。その後の観測では、この彗星は新しい周期彗星で周期約6.1年近日点通過1970年10月6.994日(ET)である。

鳥羽(1971a)新彗星

茨城県土浦市の鳥羽健次氏は1971年3月8日早朝(日本時)にペガサス座に光度約10等の彗星状天体を発見

し、翌9日朝再び観測して運動を確認し、東京天文台に通報された。東京天文台でも10日早朝の観測で確認し、鳥羽彗星として発表した。初期の観測から求めた軌道要素と、概略の位置の予報は次の通りである。

$$\left. \begin{array}{l} T=1971 \text{ Apr. } 17.270 \text{ ET} \quad \omega=152^{\circ}38' \\ \Omega=103^{\circ}35' \\ q=1.2328 \text{ A.U.} \quad i=109^{\circ}69' \end{array} \right\} 1950.0$$

年	月	日	赤経	赤緯	Δ	γ	Mag
1971	IV	29	22 ^h 11 ^m 4	+03°36'			
	V	9	22 ^h 16.9	-03 51	1.135	1.278	8.0
		19	22 21.6	-14 41			
		29	22 24.5	-30 42	0.794	1.389	7.6

(香西洋樹)

好評発売中

1971年版 天文年鑑

1971年の天文の出来事が一目でわかる天文年鑑

71年夏には久しぶりの火星大接近が観測できるので、今年はとくに火星の予報記事に力を入れています。グラビアにはピク・デュ・メディ天文台(フランス)から送られた土星の新リング発見の写真や、オーストラリアで撮影された国産衛星「おおすみ」の写真をのせました。

天文年鑑編集委員会編

●B6判/122ページ/定価260円



天文用語事典

近刊予告

●B6判/250ページ
予定価550円/天文ガイド編

天文用語を、天体器械・写真・太陽・地球・月・こよみ・人工衛星・彗星、太陽系、恒星・銀河系の4項目に分類し、約500語を簡明に解説したハンドブックです。天文年鑑、天体観測ハンドブックとともに、アマチュア天文家は、ぜひ1冊そなえて下さい。

誠文堂新光社 東京・神田錦町1の5 振替東京6294